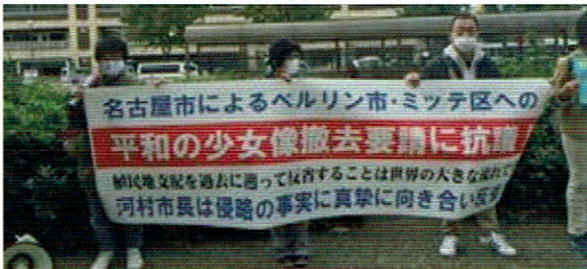


「表現の不自由展・その後」を理由とした 大村知事リコール 不成立！

11月7日、高須克弥氏や河村名古屋市長は8月25日から開始をした大村知事リコール活動を終了すると記者会見をしました。一部自治体の署名が継続している段階での終了宣言は、解職請求に必要な署名数が集まらなかったということであり、事実上の敗北宣言です。

私たち「表現の不自由展・その後」をつなげる愛知の会では、あいちトリエンナーレの企画展「表現の不自由展・その後」を契機に行われたこのリコール運動は、憲法に明記された「表現の自由」を脅かすものであり、歴史の事実を否定する「歴史改ざん主義」が根底にあると批判し、リコール反対の様々な活動をしてきました。リコールの不成立は、この危険性を多くに市民・県民が受け止め、賢明な判断をした結果だと考えます。

しかし、河村名古屋市長は、ドイツベルリン市ミッテ区に設置された「平和の少女像」の撤去要求を名古屋市として提出しました。(これに対しても撤回と謝罪を要請)今後も、確信的な歴史改ざん主義者である河村市長を追及していくと共に、「表現の自由」を守り、「歴史の事実を」伝える活動を継続していく必要があると考えます。



声明 「表現の不自由展・その後」を理由とした 大村知事へのリコール活動失敗について

11月7日(土)、高須克弥・河村たかし両氏は記者会見を行い、両氏が8月25日から開始した大村秀章愛知県知事へのリコール活動を終了すると宣言しました。解職請求自体を可能とするために必要な署名数に達しない中での活動終了宣言は、リコール活動が失敗したということです。

私たちは、今回のリコール活動が憲法に定められた「表現の自由」、すなわち公権力による検閲の禁止を市民自ら公職者に破ることをもとめる大変危険な活

動であると批判してきました。そしてその動機に「歴史の事実」を否定する歴史改ざん主義があるとも批判してきました。それゆえリコール活動が失敗に終わったことは、このリコール活動の危険性を多くの市民が感じ、それに応じた判断をした結果であると考えます。まさに愛知県の市民の「当たり前」の常識」が示された結果であると考えます。

一方、今回のリコール活動は、市民の権利である公職者の解職請求に、公職者である河村たかし名古屋市長が積極的に参加したという点で極めて異例なリコール活動でした。それは河村市長が昨年来強行してきた、憲法違反の検閲行為と歴史改ざん主義をさらに推し進めるための参加でした。

リコール活動は市民が公職者を罷免するための権利行使であり、公職者のためのものでは断じてありません。河村市長による、自らの憲法違反と歴史改ざん主義の正当化のためのリコール活動の利用に強く抗議します。

またリコール活動は失敗に終わりましたが、市民の中に「表現の自由」と「歴史の事実」を否定しようとする人々が一定数いることをとても残念に思います。今後とも「表現の自由」と「歴史の事実」の尊さを訴え、市民社会にその価値観がより定着していくために努力していきます。

最後に、この間私たちの活動にご協力、ご参加、ご注目いただいたすべてのみなさまに厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。みなさまと一緒に「表現の不自由展・その後」を理由とした、大村知事へのリコール活動が失敗に終わったことを喜びたいと思います。

「表現の不自由展・その後」をつなげる愛知の会
共同代表 久野綾子 磯貝治良 池住義憲
長峯信彦 中谷雄二

「憲法をくらしと政治にいかす 改憲 NO!あいち 総がかり行動」結成！

安倍政権の退陣を受けて、「安倍内閣の暴走をとめよう共同行動」と「安倍9条改憲 NO!あいち市民アクション」は協議を重ね、両者を発展的に解消し、安倍政権の政策を引き継ぐと明言する菅内閣に対峙し、憲法が社会や政治にいかされ、改憲をさせないための新たな団体を立ち上げました。(結成集会は11月23日)個人・団体会員を募ります。多くの方の参加を呼びかけます。同封の呼びかけ文をご参照ください。